

WAVE!  
2011.04  
Vol.16

成田市議会議員

# 雨宮しんご

活動日記を毎日更新!!

雨宮しんご

検索

32歳

成田市議会議員選挙!!

4年に一度の  
市議会議員選挙で、  
政策提案できる議員を!

昨今の経済危機の余波を受けて税収見込みが目減りしていく中にも、新清掃工場や成田駅東口駅前の再開発などの大規模事業な都市基盤整備に着手するため、「市債残高」(将来世代への借金)は450億円にまで膨れ上がり、営々と積み立ててきた財政調整基金(貯金)の切り崩しも顕著となっています。

このような時だからこそ、市の事業提案に対して是々非々を鮮明に打ち出し問題点を指摘するとともに、より良い改善策を示すことのできるチェック機関としての市議会が求められています。

問題点を把握し、その改善策を的確に策定し提案する企画力と実行力。そして、広い視野に立った、市民生活向上のための立案力。次代を担う子ども達のためにツケを回さない、成田市の未来を描くことのできる展望力をもった議員。

4年に1度の市議会議員選挙で、政策提案できる議員を増やしましょう!



## 23年度当初予算決まる!

平成23年度の成田市の当初予算が決まりました。一般会計当初予算は628億円となり、22年度当初予算572億円から9.8%の伸び率になります。また、特別会計は237億8,937万8千円で、前年度比3.7%増。総計は865億8,937万8千円で前年度比8.1%増となりました。

一般会計600億円という規模は20万人都市相当です。成田市民は約12万7千人ですから市民一人当たりの予算は約49万5千円ということになります。

経済が低迷している状況であるにもかかわらずこうして予算規模が拡大すると、一見、成田市が堅実に成長、発展しているように見えます。ですが、今回の予算規模は税収の見込みが増えたことによるものではなく、市債(借金)の発行や財政調整基金(貯金)の切り崩しなどによるものなのです。

背景には、JR成田駅東口の駅前再開発をはじめ

として、新清掃工場の整備、赤坂消防署の建て替え事業、公津の杜中学校の建設や複合施設整備事業など大規模事業が控えていることにあります。

成田市は「裕福」という印象は隣接市との数値的比較に過ぎず、空港を抱える都市としての基盤整備に多額な予算を投じていくことが必要な成田市に、当てはまる言葉ではありません。

今後も中長期的な視野に立った、政策の集中と選択による財政の効率化を提案しながら、効果的な予算執行となるよう、引き続き行政のチェックをしてまいります。

## 赤坂消防署の暫定移転に伴う 救急消防体制への影響

議案第16号成田市消防署設置条例の審議において質疑を行い、赤坂消防署暫定移転に伴う救急

消防体制の影響が明らかにされました。赤坂消防署は23年度から現庁舎を取り壊し、24年度に新たな消防庁舎を建設する方向で計画が進められ、平成25年4月の開署を目指しています。(当該予算は約10億円)

新庁舎完成には、取り壊しから完成まで2年を要するため、その間の消防救急機能は、公津の杜にある公津分署に移設することになっています。

そのため、管轄区域であるニュータウン地区、公津地区、八生地区などの消防業務を公津分署から担うことになるため、物理的な遅延が発生する恐れがあります。移転先である公津分署は、赤坂消防署から直線で約1700メートルあるため、ニュータウンの玉造方面や八生地区には最大で5分、成田北高校だと4分程度遅延する見込みとなっています。2年間の暫定措置とはいえ、火災などで救急要請された方への影響は図り知れないことから、消防機能低下が予測される地区への周知徹底を望みました。

# 雨宮しんご

出前市政報告会を開催しています!

### 雨宮真吾事務所

事務所 : 〒286-0018 成田市吾妻 3-48-28

tel : 0476-27-5918 / fax : 0476-27-1051

[info@ama-shin.net](mailto:info@ama-shin.net)

[www.ama-shin.net](http://www.ama-shin.net)

- 1978年10月31日生まれ(32歳)
- 明治大学大学院
- 元進学予備校講師
- 最年少、過去最高得票で平成19年成田市議会議員選挙に初当選
- 都市計画審議会委員
- 日本サーフィン連盟公認インストラクター

雨宮しんごは、お一人にでも多く市政の現状・問題点をお伝えするため、ご要望に応じて出前市政報告会を開催しています。メールかFAXにてお申込み(2人以上)頂ければ、日程を調節の上、成田市内どこへでも伺います。ざっくばらんな意見交換の場としても活用ください!!

# 蒼成会 雨宮しんじ 市議会議員としての4年間

2007

## 信念を貫く一人会派「蒼成会」

28歳。旧態依然とした市政に風穴をあけるために、一人会派「蒼成会」を立ち上げました。成田市の現状を調査、分析したうえで問題点を明確にし、その改善、改革のための行政資料を収集、精査。

当選後初議会から当時新聞報道でも大きく取り上げられた(仮称)公津の杜消防分署建設事業問題に敢然と斬り込むなど、市議会の一般質問(毎回質問)や議案質疑、討論に臨んできました。

また、近隣市町村議会議員で政策集団を組織、参議院選挙では「選挙に行こうぜよ!」投票率向上運動街頭キャラバンを実施してきました。

### 6月定例会議 一般質問

- (1)(仮称)公津消防分署建設事業
  - ①(仮称)公津消防分署基本設計業務委託
  - ②(仮称)公津消防分署建物実施設計委託
  - ③(仮称)公津消防分署建設工事

### 12月定例会議 一般質問

- (1)市の活性化に有効な投資的事業
  - ①V Bインキュベーション事業
  - ②成田起業塾との連携
  - ③V Bラボラトリー
  - ④商店街空き店舗・P F Iの活用

### 9月定例会議 一般質問

- (1)税収を上げるため的確な事業展開
  - ①成田市からの情報発信
  - ②ヒューマンリソース認識、取組
  - ③自主財源の確保

### 3月定例会議 一般質問

- (1)消防行政
  - (救急無線デジタル化、広域化・共同化)
- (2)自動体外式除細動器(A E D)の成果・促進

行政施策、行政サービスが政治的・経済的・社会的弱者の立場に立った判断、運営が肝要であると同時に、地方分権の波からも適所に市場原理を導入する必要性を感じている。今、成田市は、約12万人の株主に支えられ、約1200人の社員を擁する一つの企業として、ビジョンある経営の必要に迫られているのではないか。現財政力に甘んじることなく見直しを行うことで、無駄を省いたスタイルッシュかつ、今後持続可能な行財政運営を行わなければならない。

**(9月定例会議一般質問にて)**

2008

## 地方から国を変えるために。

成田新高速鉄道の開業に伴う高額運賃問題を取り上げるだけではなく、子育てをする当事者として新学習指導要領への対応といった教育問題や、子育て支援策を中心に指摘を行い、改善を図ってきました。

また、地方分権が叫ばれる中、「地方から国(政治)を変える」という新しい政治の在り方を提唱する地方政治家たちの政策提言&設計能力を競う全国大会で、全国429自治体(県市町村)971件の中から私の政策提言&設計書が全国ベスト5に選出されました。

### 6月定例会議 一般質問

- (1)ネット犯罪から子どもたちを守る
  - ①青少年を取り巻く情報化社会
  - ②ネット被害児童防止の取組
  - ③フィルタリングとメディアリテラシー
  - ④青少年の健全育成に向けた条例制定

### 12月定例会議 一般質問

- (1)中学校調査書(内申点)の公正化に向けた取組
  - ①学校間の評価格差が最大18.4倍への見解
  - ②特色ある入学者選抜における制度説明

### 9月定例会議 一般質問

- (1)公共建築物や一般建築物の耐震化の促進
  - ①公共施設の耐震改修のスケジュール
  - ②耐震化の前倒しを提案
  - ③耐震改修の助成制度設立の提案
  - ④被災時における地盤の液状化への対策

### 3月定例会議 一般質問

- (1)新高速鉄道における適正な運賃体系など
- (2)成田市の教育
  - ①成田市の教育の独自性
  - ②新学習指導要領
  - ③国際教育推進特区の今後のあり方
  - ④「ゆとり教育」の評価

他市の(整備)状況なんて関係ないと思うんです。成田市にとって必要であれば、それがたとえ全国初だろうがなんだろうが必要と思った時点で実施すればいい。(答弁では)「検討する」とのことですが、(耐震問題は)もはや検討する時期じゃないと思うんです。やるのかやらないのか、そしてやらないんだったら、その4つの施策でどうやって(耐震化率を)90%に持っていくのか説明して下さい。市長!「検討する」ではなく、「やる」のか「やらない」のか、答弁いただけないでしょうか。

**(9月定例会議 一般質問にて)**

※この質問に対し、小泉市長から第一答弁を覆す異例の英断をいただきました。

2009

## 空港の盛衰は成田に直結!

国交相が羽田空港D滑走路供用開始と共に国際ハブ空港とする考えを表明。これまで日本の国際線基幹空港としてあり続けた成田が、一転して衰退の危機に直面しました。

成田市は空港と盛衰を共にするすることから、地盤沈下を防ぐためには新たな成田空港のポテンシャルとして「30万回容量拡大」を国に示す必要があり、羽田国際化を前に明言することが不可欠であると確信し、一般質問という公的な場で一貫して主張し続けてきました。また猛威をふるった新型インフルエンザ問題では、国と県を横断しての緊急対応処置の実践を強く働きかけてきました。

こうした市議会議員としての本来の議会活動の傍ら、全国の都県議会議員や区市議会議員、それに自治体首長、大学教授、学生たちが参席した会場で講演を行うなど、活動の場も広げてきました。

### 6月定例会議 一般質問

- (1)子育て支援(次世代育成支援行動計画)
  - ①前期 ②後期 ③次世代育成支援行動計画
- (2)新型インフルエンザ
  - ①成田空港水際対策での協力体制
  - ②総割行政の限界と情報ディバイド
  - ③公共施設の閉鎖基準と啓発、周辺環境の整備

### 12月定例会議 一般質問

- (1)成田空港行政
  - ①国交相による「羽田ハブ化発言」
  - ②発着枠回数30万回への具体的時期の提示
  - ③成田空港の諸問題解決と空港の将来ビジョン
- (2)成田市の危機管理体制(新型インフルエンザ)

### 9月定例会議 一般質問

- (1)住民基本台帳カード
- (2)狂犬病予防
- (3)犬猫の登録

### 3月定例会議 一般質問

- (1)成田空港行政
  - ①オーブンスカイ合意に伴う成田空港の影響
  - ②30万回予測騒音センター提示後のスケジュール
  - ③成田空港成長戦略会議の進捗
- (2)成田新高速鉄道における運賃
- (3)戦没者追悼式への児童生徒の参加

県が情報を落としてくれないといった縦割り行政の弊害については、承知しています。ですが、情報収集や情報提供にはもっと努めていく必要があったのではないかでしょうか。あとは主体的に取り組んでいくかどうか。やる気の問題も大きかったのではないかでしょうか。ただ、黙って情報が降りてくるのを待っているのではなく、今自分たちができる可能性を探して行動していく。そうした有機的な動きが求められているのであります。(それが)市民の安心と安全を守る対策本部のあり方ではないかと思慮します。

**(12月定例会議 一般質問にて)**

2010

## 大きな前進。大きな改善。

羽田空港の国際化を受けて成田バッシングが始まるなど、成田市への風当たりが強くなりました。その一方、都心と成田空港を30分台で結ぶ「成田新高速鉄道が開業」し、わたくしも新駅基幹交通網整備促進特別委員会の副委員長としてその推進に携わりました。また、ずっと提言し続けてきた「成田空港容量30万回への拡大」が合意されるなど、成田市は大きな前進を果たすこともできました。

一般質問では「政策入札」の政策提言を行うとともに、地域問題として赤坂センタービルのアスベスト問題を取り上げ、大きな改善を得ることができました。市長選挙では投票率向上運動に力を注ぎ、議会では「ローカル・マニフェスト」の実施による市民参加のまちづくりを提唱してきました。

### 6月定例会議 一般質問

- (1)政策入札の実施
- (2)公契約条例
- (3)成田空港行政
  - ①国交省成長戦略会議報告書への見解
  - ②成田空港成長戦略会議の進捗状況
  - ③発着枠30万回の容量拡大を明言すべき
  - ④騒音対策における市の姿勢

### 12月定例会議 一般質問

- (1)市長の市政運営における4年間の成果と評価
- (2)ローカル・マニフェスト選挙の提案
  - ①説明責任の観点からも導入すべき
  - ②市の政策課題認識と今後の展望

### 9月定例会議 一般質問

- (1)成田市のアスベスト対策
  - ①リスク認識と管理体制
  - ②アスベスト飛散対策
  - ③市独自の指導要綱の整備
  - ④赤坂センタービルのアスベスト対策
- (2)成田市のコンプライアンス(法令順守)の推進

### 3月定例会議 一般質問

- (1)市長公約の中間・事後評価できる制度設計を
- (2)成田市から雇用創出策を
- (3)行政のフィードバック体制
- (4)中学校間の評価格差

市長は他でもなく12万7千市民のための市長です。選挙で応援した人だけのための市長ではありませんし、応援したと喧伝して利を得ようとする者だけが、市長に投票したのではありません。

その意味では、誰に束縛されることなく、ご自身の信念とビジョンに遵って行政運営にあたっていただきたいと思います。

市長の愛と誠が、成田12万7千市民に遍く賜りますよう。

**(3月定例会議 一般質問にて)**

「28歳の私には、未来への責任がある。」

蒼き志で成田市の未来を創るとの想いを込めて一人会派「蒼成会」を創設し、私の未来への挑戦が始まりました。

この4年間、必ずしも全てにおいて思い通りの結果が出せたとは言えません。

それでも、決して弛むことなく本気で挑戦を続けることができる。「成田の未来をもっとよくできる」という確かな手ごたえを今、感じています。